

難民がもたらす利益が現地の難民受け入れ寛容度に与える影響：
日本におけるオンライン無作為化比較実験

要旨

本稿は、どのような情報提供が人々の難民受け入れ寛容度に影響を与えるか定量的に検証するために、日本国内 300 名を対象とした無作為化比較実験を行った。その際、参加者に潜在的な利益と回避できる不利益に関する情報提供を行い、情報介入の効果について推計を行った。推計の結果、2 種類の情報提供による、難民申請者への受け入れ寛容度に対する有意な影響は、確認されなかった。しかし、異質性分析の結果、潜在的な利益に関する情報提供は、労働力不足に関心がある実験参加者の難民受け入れ寛容度を向上させたことが示された。この結果は、難民受け入れの便益を他の社会問題の改善策として、その社会問題に関心のある人々に提示することが、難民受け入れに対する寛容度の向上に有効であることを示唆する。本研究の貢献は、移民ではなく、難民流入がもたらす利益を示す情報提供が、国民の受け入れ寛容度にどのような影響があるか実証研究を行った点である。加えて、人々の難民受け入れに対する寛容度を向上させる一手段として、情報提供の有効性を明らかにした。

キーワード：難民、難民申請者、情報提供、無作為化比較実験